



特集

トライアスロンがつかないだ絆

〜ニュージーランドパーマーストン・ノース市との交流〜

三原市から直線で9,300キロメートル以上離れたニュージーランドパーマーストン・ノース市。そのパーマーストン・ノース市と三原市がさまざまな分野で交流していることを皆さんは知っていますか。今月号では、交流のきっかけになったエピソードや広がりつつある両市の交流について紹介します。

◎経営企画課

☎0848・67・6270



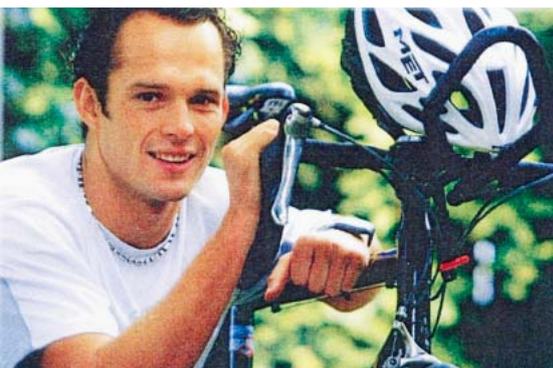
1人のトライアスロン選手がつかないだ絆

毎年8月に佐木島で開催され、多くの選手や観客でにぎわうトライアスロンさぎしま大会。大会運営上の縁で、平成10年からニュージーランドの選手を招待し、友好を深めてきました。

平成15年、同国のパーマーストン・ノース市出身で、世界選手権の代表選手にも選ばれたサイモン・ブリテン選手が、大会にエントリーしました。しかし、サイモン選手は大会直前に突然、体調不良となり出場を断念しました。

サイモン選手は大会の欠場を謝罪するためにわざわざ島を訪れました。「また来年、参加してほしい」という思いを

込めて本人にゼッケンを手渡しました。今も大会の運営に関わり、ニュージーランド選手の世話役を務める小谷章一さん



▲大会出場を果たせないまま亡くなったサイモン・ブリテン選手

パーマストン・ノース市って どんなところ？



▲市の中心にある広場
「ザ・スクエア」



パーマストン・ノース市は、ニュージーランド北島の南部、マナワツ・ワンガヌイ地方の中心都市で、古くから酪農の盛んな都市として栄えてきました。

市内には農業関係の研究で有名なマッセイ大学や国立の研究機関があり、ニュージーランドの主要産業の農業・酪農の研究基地のひとつとして機能しています。

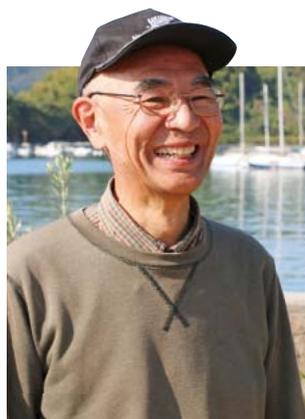
首都ウェリントンからは車で約2時間。国際空港や鉄道の駅が市内にあるなど、交通アクセスに優れています。

人口 約86,000人
面積 395平方キロメートル
公用語 英語・マオリ語



▲ニュージーランドで唯一のラグビー博物館があります

一度は途切れたかと思われたサイモン選手とのつながりでしたが、サイモン選手の父・バリーさんは、息子が島民と交流していたことを知り、兄・マークさんと共に大会に参加することを決意



▲サイモン選手とのエピソードを語る小谷さん

は当時の事をこう振り返ります。
ニュージーランドに戻ったサイモン選手は懸命に闘病しますが、小谷さんの願いは届かず、翌年3月、サイモン選手は肺がんにより他界しました。

しました。2人は平成17年、サイモン選手が着けるはずだったゼッケンの上に自分のゼッケンを縫い付けて出場。ゴールでは島民に温かく迎えられました。



▲平成17年の大会でゴールテープを切るサイモン選手の父・バリーさん

「これほど大きなことになるとは
7月にはパーマストン・ノース市長が三原市を訪れ、両市がさまざまな分野で友好交流を続けていくことで合意しました。」

▶「友好の森」で談笑する地元の人たち



この感動を後世に伝えたいという思いから、地元住民と広島・ニュージーランド友好協会の人たちが島に「友好の森」を整備し、当時の駐日ニュージーランド大使を招いて、島を挙げての植樹祭を開きました。
その後も、パーマストン・ノース市と島民との交流は続き、島民が同市を訪れ、サイモン選手の墓参りをしたり、サイモン選手が卒業した大学で行われた桜の植樹祭に参加したりするなど、友好を深めました。
こうした活動が実を結び、昨年

思ってもみなかった。パーマストン・ノース市との関係がもっと深まり、若い人たちの交流が進んでくれるとうれしい」と笑顔で話す小谷さん。1人のトライアスロン選手がきっかけとなり始まった交流は、市同士の交流につながりました。



交流はやがて地元の子どもたち

鷺浦小学校の児童が、パーマストン・ノース市の学校とインターネット回線を使ったテレビ電話で交流しました。英語教育に力を入れている鷺浦小。子どもたちが学んだ英語

を生かす場がないかと、トライアスロンでパーマストン・ノース市とつながりのある地元住民に仲介を依頼し、交流が実現しました。子どもたちはお互いに自己紹介や質問をするなどして



▲港でパーマストン・ノース市のグラント・スミス市長を出迎える鷺浦小学校の子どもたち



▲お茶のお点前も披露しました

地元住民が続けてきた交流は、鷺浦小の子どもたちに貴重な体験をもたらしました。

いつか再びパーマストン・ノース市の人たちと語り合う日のために英語の勉強に励む鷺浦小の子どもたち。ALT(外国語指導助手)の授業にも熱心に取り組んでいます。

また、昨年7月にはパーマストン・ノース市のグラント・スミス市長が鷺浦小を訪問。子どもたちは英語で佐木島の紹介をしたり、和太鼓やお茶のお点前を披露したりして、精いっぱいもてなしました。

親睦を深めました。



▲佐木島の紹介のため、子どもたちが作った英語のパンフレット



ジョーブ・ダイヤさん

テレビ電話で交流した 西山響喜くん(小学4年生)▶

英語で自己紹介をするときは緊張したけど、自分が話した内容が伝わり安心しました。みんなから名前を呼んでもらえたときは、とても嬉しかったです。パーマストン・ノース市のみんなともっと仲良くなりたいです。

▶鷺浦小で英語を教えるALT ジョーブ・ダイヤさん

8月から鷺浦小など三原の学校で英語を教えています。

私はパーマストン・ノース市に住んでいたこともあり、三原とパーマストン・ノースの間で交流があると聞いたときは、とてもうれしかったです。私が教えた子どもたちが、大人になってニュージーランドに遊びに来てくれることを楽しみにしています。

▶子どもたちに英語を教えるジョーブ先生

▶テレビ電話での交流の様子



西山響喜君



子どもたちを受け入れた ホストファミリーの皆さん



梶谷さんご家族(久井町羽倉)

(写真右から)梶谷幸子さん・俊君・菜子さん・俐子さん

私たち家族は誰も英語を話すことはできませんが、すぐに打ち解けることができました。喜んでもらおうと食事いろいろ準備をしましたが、一番人気なのはカレー。あまり難しく考えなくても良いのだなと思いました。最終日の夜、「悲しい夜だ、三原は素晴らしい所だった」と話しているのが分かり、とても名残惜しかったです。



高谷さんご家族(久井町坂井原)

(写真右から)高谷 ゆりあちゃん・絵美さん・愛梨さん・美桜さん

自分の子どもたちにとっても、良い経験だったようで「また来てほしい」と言っています。英語にも興味を持つようになりました。皆さんとは帰国後もメールのやりとりが続いています。パーマストン・ノース市との交流がもっと広がればよいなと思いますし、いろいろな人にこういった交流の機会があればいいと思います。



▲ニュージーランドの伝統舞踊「ハカ」を披露する子どもたち



ホームステイで広まる交流の輪

今年7月、パーマストン・ノース市にあるセント・ピーターズ・カレッジの子どもたちが、日本の歴史、文化を学ぶために来日しました。子どもたちが到着したちょうどその日、三原市は平成30年7月豪雨に見舞われ、市内のさまざまな地域で予定されていた交流や視察は、全て中止となりました。断水の影響などにより子どもたちを受け入れることができなくなったホームス



▲けん玉を習う子どもたち

テイ先の家庭に代わり、久井地域の家庭で子どもたちを受け入れました。



未来へ向けて

市民同士で始まり、深めてきた絆をさらに発展させ未来につなげていくため、昨年7月、三原市とパーマストン・ノース市は、教育、経済、防災、文化的行事などさまざまな分野での交流を続けていくことで合意しました。

また久井地域の住民やボランティアの人たちが協力し、地元子どもたちとの交流会を開催。けん玉や鬼ごっこなどで交流しました。

この一環で先月、パーマストン・ノース市の危機管理の責任者スチュワート・デイビスさんが、防災研修のため三原市を訪れ、市内の防災施設や豪雨災害の被災現場などを視察しました。

両市の関係が発展していけば、市民同士の交流の機会も増えることが期待されます。交流を通して異なる文化・習慣に触れることで、市の未来を担う子どもたちの可能性はさらに広がるかもしれません。市民同士の交流の場が増えるよう、両市は友好の絆を発展させていきます。

募金活動が行われました



豪雨災害で被害を受けた三原市を支援するため、パーマストン・ノース市では、募金活動などが行われました。

▲三原市を支援するため行われたチャリティーイベントのポスター